



インスピレーションになろう



バリー・ラシン
2018-19年度国際ロータリー会長

No. 7

Takasago Rotary Club

週報

高砂

クラブ会長方針

“価値あるロータリーを”

- ①居心地のいいクラブ
- ②いつでもどこでも誰とでも親睦
- ③会員同士が刺激しあい、尊敬しあい、お互いの活力になろう
- ④ロータリーの価値を意識しよう

例会記録 (2018. 8. 24 (金)) 通算3, 181回

◆開会

◆ロータリーソング「我等の生業」

◆「四つのテスト」唱和

◆プログラム予定

8月31日 (金)	9月7日 (金)	9月14日 (金)	9月21日 (金)
卓話「友愛奉仕について」 名嶋一成 会員	卓話「自己紹介」 MHPS 有馬喜代貴 会員	卓話 (仮)「新規事業立ち上げ」 カネカ 上田 実氏	高砂青松RCとの合同例会 (ウエディングパレス鹿島殿) 「名物機長の“夢実現”」 ANA元操縦士・機長 山形 和行氏

◆出席報告

本日8月24日 会員数43名 出席者29名 出席率76.31%
前々回8月3日 会員数43名 修正出席者8名 出席率97.67%修正

◆MAKE-UP

滋野 敦士会員 e-CLUB 8月3日
滋野 敦士会員 e-CLUB 8月10日
滋野 敦士会員 e-CLUB 8月24日
有馬喜代貴会員 e-CLUB 8月24日
落合 計夫会員 e-CLUB 8月10日
加治屋昭平会員 e-CLUB 8月10日



親睦・出席委員会 後藤純次 委員



親睦・出席委員会 西田秀雄 委員長

◆委員会報告



クラブ奉仕委員会 協谷政孝 委員長

◆S. A. A. (ニコニコ箱報告)

坂井 智代会長……無事にガバナー公式訪問を終えまして皆様のご協力に感謝いたします。集合写真での全員ブルーのネクタイ姿に高砂ロータリークラブの結束と友愛を感じました。ありがとうございました。

山本会員、本日の卓話よろしくお祈いします。

山本 広志会員……久し振りに会員増強の卓話をさせて頂きます。どうぞ宜しくお願い致します。

尾上 喜秀会員……先日、生野高原ゴルフで久しぶりに80が切れました。

◆幹事報告（3,181回）

〈国際ロータリー第2680地区より〉

1. 矢野ガバナーより、8月10日公式訪問のお礼状が届いております。
回覧致しますので確認をお願いします。
2. 米山梅吉記念館より秋季例会開催と賛助会員募集の案内が届いております。
詳細は回覧で確認をお願いします。

〈例会変更のお知らせ〉

1. 高砂青松ロータリークラブ
9月19日（水）→ 9月21日（金）
高砂ロータリークラブとの合同例会に振り替えます。
2. 加古川平成ロータリークラブ
9月 5日（水）→ 移動例会のため、例会場所を兵庫県立農業高等学校に変更。

〈その他〉

1. 「兵庫陶芸美術館」より兵庫県政150周年記念事業「没後50年河井寛次郎展」の開催案内が届いております。
招待券も有りますので、興味のある方は回覧を確認下さい。
2. ひょうご子どもと家庭福祉財団より「平成30年度サマープログラム募金」ご協力の御礼が届いております。
回覧で確認をお願いします。



後藤宗久 幹事

◆会長の時間

「成熟社会とは」

今年の高校野球は100回記念大会ということで大いに盛り上がりを見せていました。私もテレビ観戦しながら、最近の若者の根性とか分析力とか冷静さに感動し、何よりインタビューでのコメントの受け答えの完成度に感心しました。いま色んな情報がネット配信されそれを見ている子供達は年齢より大人な言動を心得ているのかもしれない。一方で、今回の大会ではレジェンド始球式として過去の活躍選手が日替わりで登場し毎日始球式



坂井智代 会長

をするという企画がありその映像を見ながら、高校野球の長い歴史の重みを感じ、伝統を受け継いだ高校球児の姿に日本の明るい未来を感じたのは私だけでしょうか。

そこで、日本の社会や家族の形態がどう違ってきたのか少し振り返ってみます。前産業化社会といわれた時代（農業時代）には大家族での凝集性の高い強固な共同体が存在し、そのなかで相互扶助（老人介護や子育て）がおこなわれていました。次の産業化社会では、工業化・都市化の過程で男性（夫）が核家族の生計を支えるという姿が基本となり、妻や子供は扶養者と位置付けられました。一方で核家族により老人は別居することとなり家族内で行われていた老人の介護や経済的扶養は外部化（社会保障化）されていきます。さら

にいまの高齢化社会では、女性の社会進出が進み、夫を中心としていた核家族という共同体の凝集性もさらに緩和され、それまでは完全に家族内に収まっていた子育てさえも外部化・社会化されようとしています。老人の経済的扶養は年金制度によって社会化され、老人の身体的扶養もまた介護保障制度により社会化され、いまは子育て支援が盛んに語られています。国としての生産力が高度化していくなかで、共同体ないし社会の凝集力は緩んできていると言われていています（「日本の社会保障」広井良典著一部抜粋）。また現代の職場の特徴としては、男女差だけでなく世代間の境界も崩れてきており、第三次産業革命とも言われるPC・IT化の進んだ社会では、もはや先輩や上司が必ずしも指導者ではなく必要な情報やスキルはネットで検索することができ、職場での上下関係も崩壊しつつあるといわれています。そのうえ自由と平等が尊重されるあまり、権威は失墜し、ますます責任の所在が不明瞭な時代ともいわれています。今時の働き手の傾向としては、集団で行動するよりも“個人個人の遣り甲斐を探求している時代”です。

このような時代のなかでよく耳にする「成熟社会」の語源は、イギリスのノーベル物理学賞者「ガポール」が1972年に提唱した言葉が発端で、物質的に潤い成熟した社会が次に目指すのは、精神的な豊かさであり、心の満足と豊かさを感じられる社会です。職場においては、限られた財源や人的資源を最大限活用できるように、「個人」の自立を認めたいうえで、新たな社会のネットワークを充実させ、公平で透明性のある明るい未来社会を作ります。男女差や世代差に関係なく、個人個人の素晴らしい資質、それぞれの人間の本質を見据え、個人個人が豊かで幸せな社会を目指しましょう。最近よく報道されたスポーツ界の不祥事（アメフト・ボクシング）は古い体質の世代が起こしているようで、若い世代のほうが成熟社会にうまく適応できているようです。ロータリークラブが時代錯誤にならないよう時代の波に乗り続ける弛まない努力が必要だと思います。

本日は山本会員からの会員増強の話をお伺いします。山本会員は、高砂ロータリークラブのレジェンド的存在でもあります。そんな山本会員がいまロータリーのことをどのように感じておられるのか、本日のお話を楽しみにしています。

◆本日のプログラム

卓話「会員増強、拡大について」

会員増強・選考委員会 山本広志委員長



プログラム委員会 森本幸吉 委員長



会員増強・選考委員会 山本広志 委員長

会員増強セミナー

平成30年6月2日(土)
神戸商工会議所3Fにて

会員増強に当たっての留意点

- 親睦と奉仕の調和が大切
- 真にロータリアンになれる人を勧誘する
- 社会奉仕における「物忌の情」を理解する
- (物忌の情は武士道精神の一つ、性善説を取る孟子も「物忌之心 仁之端也」(他に対して哀れみ、いたむ心は 人として最高の徳である)と言っています)
- 職業奉仕を失うならばロータリーは単なる奉仕団体に陥る、それほど職業奉仕はロータリーの根幹である。

勧誘のための基礎知識 3つのロータリーの目的

- ①ロータリアン同士の友情を基盤に
- ②価値ある奉仕をしている。
根幹は職業奉仕。職業奉仕がなければ社会奉仕も国際奉仕もない。
- ③立派なロータリアンを育てている。
- 自分達のクラブはどうなのか？
- これらを常に問うことが大切である。

ロータリーを理解するために。 ロータリーに影響を与えた主な3人のお話し。

- 1) **ドナルド・カーター** (1906年) 対社会的に奉仕する組織に進化する原動力となった。ロータリーのターニング・ポイント。
- 2) **アーサー・フレデリック・シェルドン** "He profits most who serves best" 最も奉仕する者が最も多く報いられるという第二のモットー
(標語)が承認された。(1911年)
- 3) **ガイ・ガンデッカー** (1923年6月)「決議 23-34」。
1923年(大正12年)の日本の関東大震災時に東京RCへ総額99,000ドルの義援金を寄贈

ロータリーのターニング・ポイント(転換点) ①ドナルド・カーターの存在

- 1906年4月、ドナルド・カーターに「物質的互惠」の特典を説明してレガゾ・クラブへ入会するよう勧めたとき、彼は、「職業をもって社会で生活している以上、職業を通じて社会に貢献することが、自分が存在する証になるのであって、自分たちだけの利益にこだわって、社会的に何もしない団体に将来性も未来もない」と言って入会を断ったのです。
- 創設者ポール・ハリスはこの事件を絶好のチャンスととらえて直ちに定款を改正することを条件に、ドナルド・カーターに再考を促し、彼も快く入会を承諾したのです。

②アーサー・フレデリック・シェルドン

- その2つの奉仕理念を確立化したものの一つが、アーサー・フレデリック・シェルドンが提唱した職業奉仕の理念で、**He profits most who serves best** 最も奉仕する者、最も多く報いられるという第二のモットーです。
- 第一のモットーである"Service, Not Self" のちに**Service above self**(超我的奉仕に愛護)とともに今やロータリアンの心に深く浸透しています。
- "He Profits Most Who Serves Best" がロータリーの標語として承認されたのは、1911年、ポートランド(オレゴン州)で全米ロータリークラブ連合会の第25回大会が開かれたときのことです。その原型となったのは、ロータリアン、アーサー・フレデリック・シェルドンが前年のシカゴ大会で述べた、次の一語でした。

第1のモットー (Service not Self)と
第2のモットー “He Profits Most Who Serves Best”

- 1950年、デトロイト(ミシガン州)でのロータリー国際大会で、“He Profits Most Who Serves Best”と“Service Above Self”は、ロータリーの標語として正式に承認されました。
- さらに1989年の規定審議会で、“Service Above Self”が無私のボランティア精神を最もよく表現しているという理由から、ロータリーの第一の標語として採択されています。

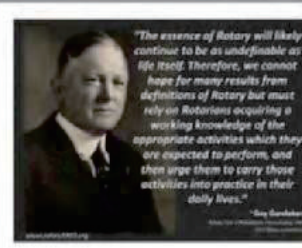


フランク・コリンズ

- 「Service, not self」は中世キリスト教神学の思想は外の何者でもない優れた宗教的色彩の強いモットーであって、自分を肯定して、宇宙を支配する神の秩序体系に帰依することである。ですが、彼はそれほど高邁な思想をもちておらず、その意味は「職業から行っていた会員同士の相互扶助をさらに広げるとともに、ロータリアン以外の人も取引をしましょう」というものでした。

③ガイ・ガンデッカー
彼の考えそのものがロータリーの目的である

- 日本のロータリアンが重要視している「決議 23-34」の採択時(1923年6月)、ガイ・ガンデッカーは1次会長エレクトでした。
- その決議文には「A Talking Knowledge of Rotary」の内容が色濃く反映されています。ネットに日本語訳があります。
- 本書の根本は、「入りて学び、出でて奉仕を實踐し、世間から信頼・尊敬される素晴らしい真のロータリアンになろう」です。
- 「A Talking Knowledge of Rotary」は彼がロータリー誌「THE ROTARIAN」の1916年4月号、5月号、6月号、7月号に掲載したものです。



ガイ・ガンデッカー

(ワシントンフィアロータリークラブ、1917年ロータリー大会に)

- ロータリーのエンタインメントは人生の目的は何かであるように見えても結局は出ない、主眼点である。故に、ロータリーを定義することで多くの結果を導くことは望めない。しかし、個人のレベルは期待されている。適切な活動を実行し、期待される結果を導くこととする。ロータリアン、だから、それらのロータリアンが日常生活の中でこれらの活動を実行するよう促す必要がある。
- 「ロータリアンにとって大事なものは実績である。」

決議23-34には、
ロータリーにおける2つの奉仕理念が定義された

- 1) “Service Above Self”の理念=他人のことを思い遣り、他人のために尽くそうと言う国際社会を含んだ**対社会的奉仕活動に関する理念**。
 - 2) “He profits most who serves best”の理念=科学的、且つ道徳的な経営方針によって自分の事業や同業者の事業の発展を図るとともに**業界全体モラルを高めていこうと言う職業奉仕の理念**。
- ロータリーにとって一番大切なこの2つの奉仕理念を定義している唯一のドキュメントがこの決議23-34なのです。

決議 23-34は何故重要なのか？(理由4)

- ロータリーの奉仕活動は個人活動を原則としながらも、**クラブの団体奉仕も認めている点**です。ロータリーでは団体奉仕は認められていないと誤解している人が多いようですが、サンプルとして行うクラブ団体奉仕も認めています。
- 奉仕活動の実践にあたっては個人には限界があるので職場や地域の人を巻き込んで活動することも必要です。しかし、この活動は年に1回とか、限りに実施されている活動とは重複しないとか、地域社会のニーズに合った新しい奉仕活動の開発や、長期活動は専門機関に委ねるといった条件があります。
- ロータリーの団体奉仕活動は、単に団体として群れて奉仕活動をするのではなく、明確な目的意識を持った個人が集まり、団体として奉仕する、すなわち、Individual Collective Service であること、つまり、Individual、個人々人であって、Collective集団的であるService奉仕であることが必要です。

会長 坂井 智代 幹事 後藤 宗久
例会日時 毎週金曜日12時30分より
高砂ロータリークラブのホームページのURL

雑誌会報委員長 豊田 克義
例会会場 高砂商工会議所 2階会議室
http://www.winwin.ne.jp/~takasago_rc/